

(別記)

令和5年度深浦町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当町の水田面積に占める主食用米作付面積は37%程度となっており、転作作物としては飼料用米、飼料作物、野菜の順に作付が多くなっている。(面積値は令和3年度水田台帳面積880.7ha)

主食用米の需要が減少する中で、他の作物への転換を進め、不作付地も含めた飼料用米や野菜等の高収益作物の作付けを促進することで、水田の有効活用及び農業所得の確保を図っていく必要がある。

特に、農家の高齢化が進み、農家戸数の減少及び昨年8月の大雨により水路の維持管理が困難な水田の不作付地の拡大が懸念されるが、農地中間管理事業の活用など各種支援策を活用しながら担い手への農地の集積・集約を図り、水田農業の維持・拡大を図るものとする。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当町は、青森県の西南部に位置し、北と西は日本海に面し、背後には世界自然遺産白神山を抱えており、山林原野が9割を占める山間地域である。農地は、海岸段丘面や河川沿いのわずかな平地に分散しており、水田は小区画不整形のほ場が多い。気候面では、県内では比較的降雪が少ないとされているが豪雪地帯に位置づけられており、沿岸部は通年で海からの風当たりが強く、露地での葉物野菜類の作付けは適していないとされている。

また、畑作物は、サル・クマ等鳥獣による被害が大きな課題となっているが、町独自の鳥獣被害防止対策協議会を利用し、農作物被害の軽減を図るものとする。

このような条件のもと、小面積でも収益性が高く、風害の少ない施設栽培による夏秋トマトやミニトマト、鳥獣害の少ないアスパラガスやフキ等といった作目を町の主力作物として振興しており、水田ほ場においても、主食用米からの作付け転換を図る上で強く進めていくものとする。

また、その他の高収益作物(主に野菜類)についても、当町は例年であれば年間90万人を超える観光入込客数がある県内有数の観光地であり、その観光客による消費や、町内3か所の産直施設における小口の販売など、地域内でも少量多品目の需要があることから、稲作農家が新たな収入を得るために稲作からの転換を進めるものとする。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当町では、農業者の高齢化等により離農が進む中、耕作条件が不利な水田を維持するのは困難な面があるのに対し、現在耕作している水田の大半は中山間地域等直接支払制度の対象農用地となり、当該制度の集落協定により、治水能力の低下を防ぐために水田機能を集落ぐるみで維持している状態であり、水田の畑地化については、無理に進める必要はない状況にある。

ただし、長年野菜等を作付けしている水田においては、農地所有者の意向を踏まえ、国の畑地化促進助成(畑地化支援・定着促進支援)を活用しながら畑地化への取組の支援をするとともに産地の合意形成を促し、農山漁村振興交付金(最適土地利用)の視点から林地化等を適切に検討・判断し、進めるものとする。

令和4年度において畑地化等の周知を図ったものの取組には至らなかったが、令和5年度においても引き続き周知を図ることとする。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

前年の需要動向や出荷業者、消費者等の意向を勘案しつつ、主食用米の作付面積は前年以下を目指す。

(2) 備蓄米

取組なし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

水田活用の直接支払交付金を活用し、地域設定の産地交付金により複数年契約に支援し、飼料用米の生産拡大を図る。

イ 米粉用米

取組なし

ウ 新市場開拓用米

取組なし

エ WCS 用稲

取組なし

オ 加工用米

取組なし

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦については、取組なし。

大豆については、国内需要の増加が見込まれることから、地域設定の産地交付金を活用して作付拡大を目指す。

飼料作物については、当町の畜産農家による粗飼料需要に応じた生産量約 300 トンの確保に向けた増収を図るため、水田活用の直接支払交付金及び地域設定の産地交付金を活用して生産性向上の取組を進める。

(5) そば、なたね

取組なし

(6) 地力増進作物

取組なし

(7) 高収益作物

米の需要量が減少している中で、農家所得の向上を目的として、野菜等の高収益作物の作付け拡大をめざす。

地域設定の産地交付金による支援を行いながら、栽培マニュアルに基づく栽培・土壌診断等、適正な施肥管理の徹底によるさらなる品質向上により、市場評価の高い「アスパラガス」「トマト」「ニンジン」「ニンニク」などの産地ブランド化をめざすとともに、例年 90 万人を超える観光客による消費と 3 か所ある産直施設を活用した販売等により、取組面積の拡大を図る。

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度(実績)	目標値
1	飼料作物(基幹作物)(オーチャードグラス、シロクローバー、チモシー、スミズロムグラス、トールフェイク、アルファルファ、フェストロリウム、エンバク、ソルガム)	飼料作物の生産性向上支援	取組面積 10a当たり収量	(R4年度) 45.8ha 510kg/10a	(R5年度) 72.4ha 557kg/10a
2	アスパラガス・フキ・トマト・カボチャ・ミニトマト・ニンジン・ニンニク(基幹作物)	主力高収益作物助成	作付面積	(R4年度) 8.1ha	(R5年度) 21.0ha
3	ゴボウ・ナガイモ・ダイコン・ネギ・エダマメ・バレイショ・ブロッコリー・インゲン・キヌヤサエンドウ・キュウリ・ナス・ゼンマイ・タケノコ・ウド・ホウレンソウ・ミョウガ・整理番号2の取組に該当しないアスパラガス・フキ・トマト・カボチャ・ミニトマト・ニンジン・ニンニク(基幹作物)	一般高収益作物助成	作付面積	(R4年度) 0.6ha	(R5年度) 1.8ha
4	飼料用米	飼料用米の複数年契約取組助成(R3年度及びR5年度)	取組面積	(R4年度) 0.0ha	(R7年度) 130.0ha
5	大豆	大豆輪作推進加算	作付面積	(R4年度) 0.0ha	(R7年度) 35.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。